

## 出光佐三氏・出光商会(門司)のあゆみ①

— 明治～大正 —

### 出光商會

本店看板

〔上〕より  
〔百田尚樹〕海賊とよばれた男

門司で旗揚げした理由：は、門司が今後急速に発展していく都市と睨んだからだ。筑豊炭田を後背に控え、八幡に官営の製鉄所ができた北九州工業地帯は、これからどんどん大きくなっていく。それに中国大陸への玄関先としてもさらに重要な町になる。もちろん門司が故郷の宗像に近いというのも大きかった。

### 1911(明治44)年 出光商会を創設(東本町一丁目)

開業当初、機械油(潤滑油)を販売しました。駅から汽車に乗り、北九州筑豊の炭鉱を回りましたが、ほとんど成果が上がりませんでした。

### 1913(大正2)年 漁船用燃料油の販売を開始 本店を移転(東本町二丁目) 甲宗八幡下倉庫を設置

灯油より安価な軽油に着目し、一帯の発動機船の大部分に燃料油を供給するようになりました。「下関への供給は販売区域超えた」という非難もありましたが、「船上売りの海上には、境界はない」と反論、これ以降、「海賊」と呼ばれるようになりました。

### 1914(大正3)年 (第1次世界大戦) 1915(大正4)年 大戦により石油価格高騰

出光商会は石油不足を予測し、あらかじめ大量に製品を買い入れ、得意先へは安く石油製品を提供し続け、絶大な信頼を獲得しました。

### 1916(大正5)年 中国・大連出張所を開設 1918(大正7)年 満鉄が出光の車軸油を全面採用

耐寒(不凍)性能に優れた出光製車軸油に変更され、頻発していた貨車焼損事故は一掃されました。

## 出光佐三氏・出光商会(門司)のあゆみ②

— 大正～昭和 —

- 1919(大正8)年 中国・青島に支店を開設
- 1920(大正9)年 朝鮮・京城(ソウル)出張所を開設
- 1922(大正11)年 二十三銀行ビル(西本町)2階に再移転  
台湾・台北と基隆に支店を開設
- 1923(大正12)年 計量器付配給船を開発・中身給油開始



海上給油船

それまでは船上では油の入った二斗缶ごと販売していた。二斗缶も安価ではなく、いちいち缶に入れて船で運ぶ手間も効率が悪い。知り合いの造船所に木造の伝馬船を発注し、そこに鉄製のタンクと計量器を備え付けた即席の給油船を作り上げた。

〔上〕より  
〔百田尚樹〕海賊とよばれた男

### 1924(大正13)年 二十三銀行による救済融資

戦後の反動恐慌、震災恐慌などと続く不況で廃業の危機でしたが、二十三銀行頭取と支店長の「銀行家は立派な商人を援助することが使命です」という英断により、救済融資で乗りきりました。

- 1926(大正15)年 甲宗八幡宮で結婚式
- 1927(昭和2)年 満鉄より感謝状・銀杯を受ける
- 1931(昭和6)年 満州事変
- 1932(昭和7)年 門司商工会議所会頭に就任
- 1934(昭和9)年 門司みなと祭創設
- 1937(昭和12)年 貴族院議員に選任される
- 1939(昭和14)年 (第2次世界大戦)
- 1940(昭和15)年 東京に出光興産(株)設立/上海油槽所竣工
- 1945(昭和20)年 (終戦)
- 1947(昭和22)年 出光商会を出光興産(株)に合併



満鉄感謝状

出光佐三氏の詳しい足跡を、ぜひ現地で御体感ください

### 出光美術館(門司)

住所：北九州市門司区東港町 2-3 電話：093-332-0251  
開館時間：午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)  
休館日：毎週月曜日、年末年始、企画展入替期間  
入館料：一般700円、高・大生500円、中学生以下無料  
併設の「創業史料室」のみ入館は高校生以上100円、中学生以下無料

### 門司港レトロへ行こう!

(北九州市ホームページ)  
[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/san-kei/file\\_0064.html](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/san-kei/file_0064.html)



# 海賊とよばれた男

## 出光佐三の

## 起点 ZERO MILE

# 門司

発行：北九州市門司区役所 電話(093)331-1881



満鉄の車両

創業当時の門司港

### 1 関門海峡

本州と九州を隔てる幅約700メートル(関門橋付近)の海峡を1日約700隻の船が通ります。出光商会の発展のきっかけとなった海上給油の舞台となりました。



計量器付給油船



当時の第一船溜まり

この男は何かを持っている。困難と言われた機械油販売にこだわり続け、今、誰も思いつかなかった、船の上での軽油販売をおこなっている。並の商人ではない。…門司と下関の石油特約店たちは、関門海峡を「海賊」と呼んで恐れた。(百田尚樹「海賊とよばれた男」より)



現在の第一船溜まり

### 2 第一船溜まり

出光商会も第一船溜まりから堀川(運河)を利用して、油を運んでいました。2つの船溜まりを結んでいた堀川も、現在は道路になっています。



鎮西橋跡(手前)と日銀跡



日銀記念碑

### 3 鎮西橋

第一船溜まりのすぐ東、堀川に架かっていた橋で、日本銀行が袂にありました。今は橋柱だけが残っています。

### 4 日本銀行跡(現在は栄町公園住宅)

1964(昭和39)年に小倉に移転するまで、金融の中心でした。1階生涯学習センターの玄関横には、記念碑があります。



### 5 棧橋

出光氏は、連絡船で下関に渡り、漁業会社に安価な燃料油(軽油)の利用を提案して、成功しました。現在も、対岸の下関と約5分で結ばれています。



### 6 旧大阪商船ビル

1917(大正6)年の建築で、八角形の塔が特徴。1階に大陸航路の待合室がありました。出光氏も創業当初から、度々大陸に渡航しています。



大連航路上屋付近のぎわい



### 7 旧大連航路上屋

1929(昭和4)年、旅客の待合室として建てられました。丸みのあるアルデコ調の装飾が特徴です。

# 海賊とよばれた男 青春の舞台



海峽ミュージアム

7



### 8 門司港駅

九州の鉄道の起点、0哩標があります。改修中の駅舎は、1914(大正3年)に建てられたもので、それまでは200mほど東(山)寄りがありました。



### 9 旧門司駅跡(九州鉄道記念館)

旧駅の場所には、旧0哩標があります。創業した頃、出光氏は、ここから筑豊の炭鉱に向かい、機械油の販売を試みました。

### 10 パナナの叩き売りの碑

日本でパナナの本格輸入が始まったのは、出光商会創業の頃。門司港駅前から山手に延びる棧橋通りでは、船中で熟れたパナナを早く売りさばこうと、パナナの叩き売りが生まれました。



### 17 栄町銀天街(みなと祭の出光氏)

「しやぎり隊」に参加した出光氏は、一際目立ち、西洋人のようだったといわれます。毎年5月に催される門司みなと祭は、出光氏が商工会議所会頭の時に、創設したものです。



### 11 甲宗八幡宮

石段上の鳥居は、出光氏が奉納したもので、「甲宗八幡宮」の文字は直筆です。横には石碑もあります。



### 12 甲宗八幡下倉庫

出光商会も、堀川倉庫、甲宗八幡下倉庫など、概ね堀川沿いに倉庫を設けていました。



### 13 門司文化会館(現在は市民会館)

出光氏は、筑前琵琶を演奏するなど、芸能文化の趣味も豊かで、門司文化会館の建設にも尽力しました。

### 14 東本町二丁目本店の初荷

1913(大正2)年、燃料油の海上売買も軌道に乗り、出光商会は、広くてモダンな建物に移転しました。



### 16 西本町本店

(写真左、右は明治屋)

1922(大正11)年、出光商会は、二十三銀行(大分銀行)ビルの2階に再移転し、以来1965(昭和40)年まで、出光興産(株)門司支店として、入居していました。明治屋と並んでいました。

### 15 出光商会創業の地

1911(明治44)年、出光商会を創業した場所には、説明版が設置され、いつもきれいに清掃されています。



### 18 三宜楼

山手の清滝方面は、料亭文化が花開いた界隈です。中でも三宜楼は、出光氏などの財界人が好んで通ったといわれます。2014(平成26)年から、一般公開されています。

参考:百田尚樹「海賊とよばれた男【上】」 柳田桃太郎「門司における出光佐三翁の思い出」 出光興産株式会社「出光100年史」